

# 大明小学校 校長室から

令和元年7月23日

No. 22

文責 校長 飯久保一男

## 夏休みを安全で健康に

明日から33日間の長い夏休みになります。子どもたちにとって、また、各家庭にとって、今年の夏休みが有意義で素晴らしいものになることを願っています。そのためには、何より、安全と健康が大切です。家庭での生活が中心となりますので、ご指導をお願いします。

1学期終業式での校長の話の概要です。

※前半は各学年や児童会の1学期のがんばりなどを称える話をしました。割愛します。



さて、明日から夏休みです。安全で健康に過ごしてほしいと思います。そこで、出会ってほしい怪獣、出会ってほしくない怪獣を紹介します。

まず、出会ってほしい怪獣です。かわいらしい怪獣で【ハヤオキリン】といひます。「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身につけている人はこの怪獣に出会うことができます。夏休みだからといって、寝坊したり、夜更かしをしたり、朝ごはんを食べなかったりという人は出会えません。ラジオ体操にもしっかりと参加しましょう。



次は、出会ってほしくない怪獣です。4月にも一度見せている怪獣ですが、【コウツウゴラ】です。車で仕事に行く人は、いつもは、ここは子どもが通学している道だと分かっている、気を付けて運転をしてくれています。でも、夏休みだと、いつもと違う時間に、通学路ではない場所にみなさんがいることがあります。そういうときこそ、注意が必要です。この怪獣に絶対に会ってはいけません。



次の怪獣は【フシンシャーク】といひます。これもとても怖い怪獣です。特に、1人でいる子どもや、夕方遅くまで外にいる子どもが好きで、声をかけてきたり、追いかけてきたり、車に乗せようとしてきたりしてきます。出会わないように、必ず複数で出かけ、夕方は早めに帰るようにしてください。もし、出会ってしまったときは「〇〇のおすし」です。

また、子どもだけで家にいるときに、人が来たり電話が鳴ったりしたときにどうしたらいいか、各家庭で話し合って約束を決めてください。



最後に、これは多くの人が出会ってしまう人がいるかもしれない怪獣です。【ダラダライオン】といひます。暑いからといってだらだら過ごす人が出てしまいます。エアコンの効いた部屋でだらだら過ごさないで、1日の過ごし方を決めて、計画通り過ごせる夏休みにしてください。

繰り返しになりますが、自分の命は自分で守る、安全で健康で規則正しい夏休みにしてください。

ラジオ体操が、今年も町内で始まった。今春、小学校に入学した孫の優花が、学校で配られた出席カードを手にして張り切っている。彼女の誘いに応じて、一緒に参加することにした。初日。まだ保育園に通っている弟の僚馬と妹の春花が、自分達も参加したいと訴えてきた。結局、孫3人をつれて会場へ向かうことになった。町内世話役の方が、幼い3人の参加者を笑顔で迎えてくれる。出席カードをあとの2人と私の分まで新しいのを頂く。僚馬と春花は、自分達が一人前に扱われて納得顔である。ラジオから参加者に向けて「全国の皆さん、おはようございます。」と元気のよい挨拶が呼びかけてくる。会場の中から「おはようございます。」と応えたのは、まだ3歳の春花唯一人。その声は会場に響き渡ったけれど、参加者達は、ラジオの声にも春花の声にも一切反応がない。程なく体操が終了し、皆言葉を交わすこともなく、会場をあとにする。帰り道、春花一人が挨拶のできたことを誉めてやりながら、自分も挨拶をしなかったことをちょっぴり反省する。

2日目。昨日と同じく、ラジオから元気な朝の挨拶が会場に呼びかける。「おは…。」と言いかけた春花が、急に口をつぐんでしまった。挨拶をしているのが一人だけで他には誰もいないことに気づき、うつむいてしまう。すっかり元気をなくし、体操もできない程にすねてしまった。帰り道、気落ちしている妹を気遣い姉の優花が「明日は、みんなで一緒に挨拶しようか。」と声をかけると「うん、やろうやろう。」と弟の僚馬が応じる。姉兄が応援してくれたことで春花に笑顔がもどる。



＜ラジオ体操イメージキャラクター「ラタ坊」＞

翌日。孫達は、約束通り勇気を出して声をそろえて挨拶ができた。参加者の中には驚いて声のほうを振り返る人もいれば、一緒に口の中で小さく挨拶をつぶやく人もいる。体操をしながらニヤッと、目と目で互いの健闘を称え合う孫達の仕草が、何ともかわいいものだ。

その日を境にして、ラジオの声に応じて挨拶を交わす声が聞かれるようになった。「お孫さん達、元気があってよしいなあ。」「気持ちのいい挨拶やねえ。」「しっかり挨拶ができて偉いねえ。」などと声をかけてもらえる間柄にもなり、3人の孫達は照れながらも得意気である。体操の終わったあとには、「また明日。」「今日も一日お元気で。」と、誰彼なく挨拶が交わされるようになった。これをきっかけにして、ラジオ体操で見知った顔と街中で出会うと、交わす言葉が自然と口をついて出るようになってきた。同じ町内に住みながら、これまで知らぬ顔で通り過ぎていた人達と、こんなにも知り合いが増えたのかと驚嘆する程、温かい気持ちを感じるようになった。幼い孫達の素直で邪念のない挨拶する声が、大人の心までをも通じ合わせるようになった、貴重な体験をした町内の夏休み早朝ラジオ体操であった。

(富山県「あいさつにまつわるいい話」優秀作品より)

私の小学生時代は、昭和40年代です。アポロ11号の月面着陸、仮面ライダーの放送開始が、私が1年生のときです。保護者の皆さんとも少し違う昭和の夏を過ごしていたと思います。

夏休みといえば、ランニングシャツ(タンクトップなどというジャレたものではなく下着姿です)に半ズボンにゴムぞうり姿でどこへでも出かけました。ラジオ体操は夏休みいっぱい8月31日まで毎日ありました。そこで友達とその日の遊びの約束をしました。時間を持って余し、朝早くから虫とりに行き、学校のプールに行つて、冷蔵庫(今とは違って小さいやつです)にやかんで冷やしてあった麦茶をがぶ飲みし、昼間のテレビで「あなたの知らない世界」という怖い番組を見て、やることもないので高校野球を見ながら昼寝をし、友達と河原で遊んで、夜は花火をやって…。大明小の近くにザリガニをとりに来たこともありました。

※私の家は小笠原(オギノ峡西店のそば)です。甲西との境に近いところです。

5人家族なのに扇風機は1台のみでした。アルミサッシではなかったの、網戸もなかったと思います。蚊帳(ご存知ですか?)をつつて寝ていましたから…。「ALWAYS 三丁目の夕日」「となりのトトロ」などの映画を見たり、蚊取線香の匂いを嗅いだりすると、ノスタルジックな気分になります。

